

# 東日本大震災から8年 ~各界からの提言

東洋システム株式会社代表取締役 庄司 秀樹氏



これから首都直下型地震、東海・東海東・南海地震が発生する可能性は非常に高い。わが社の取引先の95%は西日本に集中しており、現地社員もいるほか出張する社員も多い。そういった社員が生命を守る仕組み

## 笑顔あふれる未来目指す

みを完璧に構築したほか、本社を含めた各事業者の近隣の住民に対しての非常物資を常備備蓄している。

商品開発のノウハウを指導してもらおう。そうすれば、若者は新しいモノの考え方を覚え、新しい商品を生み出すことができる。いわき発の商品をどんどん生み出していければ、経済的にももっと強くなる。

会川鉄工株式会社代表取締役 いわきウィンドバレー推進協議会会長



会川 文雄氏

本県は2040年に、県内エネルギー需要相当量100%を再生可能エネルギーで達成する目標を掲げています。私は、原子力災害を経験した本県の新たな基幹産業として風力発電を推進したいと考えています。

## 福島製の風力発電を世界へ

弊社は創業以来、炭鉱や原発関連の工業製品を製造し、日本のエネルギーを支えてきました。震災後は金属加工技術を生かし、風力発電タワー製造に取り組みんでいます。

構造物の港湾生産工場も計画しております。また18年8月には、いわきウィンドバレー推進協議会が発足し、既通りの風力発電産業を国内外に発信するなど効果を生んでいきます。今後は住民と発電事業者が地域ぐるみで連携し合うことが必要です。国、県、各市町村、金融機関と一体となり、メイド・イン・福島の枠組みづくりに取り組みたいです。本県の風力発電産業の発展に向けて、今後も尽力する所存です。

七日町通りまちなみ協議会会長 渋川 恵男氏



渋川 恵男氏

2月3日に新潟県長岡市で「長岡版広域道路ビジョン」を考えるシンポジウムがあり、パネリストとして参加した。只見町と新潟県三条市を結ぶ国道289号がテーマのひとつに挙がっていたからである。

## 多様な文化と価値観大切

国道289号は八十里越とも称される急峻な山道。長岡藩家老河井維之助は、戊辰戦争の北越戦線で負傷し、会津若松に向かう途中、八十里腰抜け武士の越す峠と自嘲して只見町塩沢地区で亡くなった。来年には司馬遼太郎の『峠』を原作に『峠』最後のサムライとして映画化される。国道289号が全線開通すれば、

福島県、とりわけ奥会津と新潟県はより身近になる。ただ、戊辰戦争でもともに新政府軍と戦ったというも風土も文化も違う。そうした違いを認め合ってこそ本県の交流といえるのではないだろうか。

伝統会津ソースカツ丼の会会長 中島 重治氏



中島 重治氏

5月から新しい年号に変わり、平成の時代が終わる。祝日を含め10連休となる。また、日本を訪れる外国人が増えており、どうもてなすか知恵比べだ。しかし、言語や地域の様々な情報だけを整備しても、人を思い

## 「おもてなし」が復興への力

やる「おもてなし」の心、利他の精神が無くては相手の心に響かない。絆を大切に育み、温かくお迎えしよう。

酒の特徴やワインとの比較、世界に認められる可能性などを話された。

2月20日に郡山で、ホンシメシの勉強会があった。マツタケと同様、人工栽培が不可能とされてきたが、県の林業振興課が開発、間もなく本格的に生産が可能になる。日本で初めての画期的な業績だ。



県内有数の景勝地・松川浦に架かる松川浦大橋(相馬市)。震災の津波で被害を受けたが、2017年4月から一般車両の通行が可能になり、復興のシンボルとしてよみがえった。